

# 日本画家 肥後象がん デザイン

県内の日本画家がデザインした肥後象がんの作品展が27日、熊本市中央区のギャラリーカフェアークで始まった。肥後象がん師の白木光虎さん(80)＝熊本市＝が「伝統工芸に新しい風を吹かせたい」と初めて企画。動物をかわいらしくあしらったペンダントなどが並

ぶ。12月2日まで。

日本画家で崇城大芸術学部長の中村賢次さん(55)にデザインを依頼。

白木さんら象がん師5人が約一カ月かけて象がんにした。

区にデザイナーが依頼。

中村さんと、教え子の卒業生10人がそれぞれ数点、10数点の下絵を描いた。3、4角などの黒

会場には、飛んでいるツバメをイラスト風にしたペンダントや、抽象化した十字架を表現した額装のほか、下絵も並ぶ。中村さんは「今こそ日本画、肥後象がんとジャンルが分かれてい

いた」と初めて企画。動物をかわいらしくあしらったペンダントなどが並

現。このうち約10点を、

そ日本画、肥後象がんとしてジャンルが分かれてい

## 「伝統工芸に新しい風を」

### 熊本市で作品展

るが、日本のものづくりでは近い存在だったかもしれない」と話している。

白木さんは「これまで象がん師が花鳥風月や伝統文様などをデザインし、制作するのが普通だった。新しい芽が出てきた気がする」と手応えをみせていた。

熊本市中央区

日本画家がデザインした肥後象がんのペンダントなど

